

子ども達の育成支援活動

未来を創る子ども達の夢と創造力を育みたい。

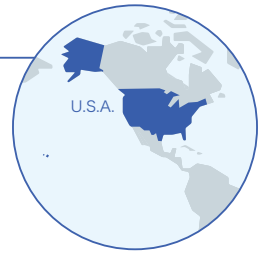
夢を原動力として歩んできたHondaは、
夢を持つこと、夢に挑戦することの楽しさや素晴らしさを
子ども達に伝えることができるような活動に、
力を入れて取り組んでいます。



Together for Tomorrow



ミニバイクを生かしたアメリカの青少年支援プロジェクト



NYPUM (National Youth Project Using Minibikes)

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド/American Honda Motor Co., Inc.

目標を達成することが ミニバイクを楽しむ喜びへ

ミニバイクがきっかけで人生が変わる——。これこそが、ナショナル・ユース・プロジェクト・ユージング・ミニバイクス (NYPUM) の素晴らしさです。NYPUMは、従来の課外活動や支援サービスにはなじめない子ども達に、バイクに乗ることを中心とした屋外活動を通じて、喜びや関心を引き出すという画期的でユニークなプログラムを提供する、子ども達の教育支援プロジェクト。1969年のNYPUM設立時から、Hondaは合計1万台のミニバイクの寄贈と、資金提供を行っています。

NYPUMでは、子ども達は広々とした屋外でミニバイクに乗る喜びにふれることができます。指導するのは信頼関係を築いた大人達。二輪車安全基金 (Motorcycle Safety Foundation) のガイドラインに準拠した適切な安全運転指導を受けます。ミニバイクに乗る時間を得るためには、環境活動や地域活動への参加が必要で、子ども達はその中で責任感やリーダーシップを身につけていきます。設立以来、39年間で約25万名の子ども達がNYPUMに参加。その間、Hondaはこの活動への協力を続け、合計4,000万ドル相当のミニバイクの寄贈と資金提供を行いました。資金は、NYPUM事務局の運営や、スタッフ訓練、プログラム内容向上のための視察、NYPUM



史上初の「2007年NYPUM全国会議」などの特別イベント助成のために使われています。また、各プログラムはHonda正規販売店のサポートも得ています。

子ども達同士の交流がある 「NYPUMロデオ」

NYPUMのプログラムの中でも特にユニークなのが、「NYPUMロデオ」です。3~4日間に渡るこの特別イベントでは、アメリカ各地のNYPUM参加者が一堂に会し、新たな友達に出会い、フェアプレイ精神や民族・文化的多様性にふれ、楽しい時間を過ごします。子ども達は、自分と同じ問題を抱えている仲間存在に気づき、孤独感から解放され、他者への理解や感謝の気持ちを育てていくのです。

アメリカの地域社会と 結びついたNYPUM

NYPUMのプログラムの特徴は、子ども達が正しい判断ができるように導き、サポートすることです。「ミニバイクを動機づけのツールとして活用し、問題を抱えるアメリカの子ども達に、自尊心、揺るぎない価値観、責任感を身につける機会を提供する」という使命を果たすことをめざして、現在、大都市、都市近郊、農村地域など、アメリカのさまざまな地域で40を超えるプログラムを展開しています。NYPUMへの支援は、アメリカの地域社会との結びつきを強めるため、Hondaが最も古くから行っている取り組みのひとつです。現在も、Hondaはアメリカの子ども達とともに、明るい未来に向けて成長を続けています。

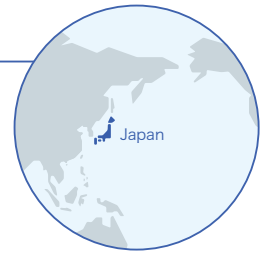


地域の環境保全活動に参加

「エンブレッシング・ザ・レガシー賞」受賞

Hondaは、NYPUMへの支援を通じて問題を抱える子ども達の生活向上に貢献したことを評価され、ロバート・F・ケネディ・チルドレンズ・アクション・コープスの「エンブレッシング・ザ・レガシー賞」を企業として初めて受賞しました。この賞は、故ロバート・F・ケネディ上院議員が

思い描いた「より良い未来」の実現への貢献を称え、広めるために設立。子ども達やその家族のために地域社会の連携強化、子ども達への直接的なサービスや支援の提供、また、子ども達に悪影響を与える社会の不正の改善に尽力する個人または団体に授与されています。



環境わごん



環境わごん
あなたの街で海と山に出会える



自然素材にふれながら学ぶ 環境への気づきのプログラム

木や草、花などの植物、海の水、川の石……。身の周りの自然を観察してみると、いろいろな不思議に出会えます。子ども達は、自然の素材にふれることを通じて、そうした不思議を発見し、自然や環境について自分なりに感じながら考えるようになるのです。このような気づきの場を提供するために生まれたのが「環境わごん」です。Hondaのワゴン車に海や山などの自然素材を積み込み、小学校や公民館などに掛けて行く

出前型の環境学習プログラムで、自然の仕組みや環境保全の大切さを伝えるレクチャーと、自然の素材を使ったクラフトなどの組み合わせで構成されています。子ども

達をサポートするのはHondaのOBボランティアスタッフ。環境の話やプログラムを通して、子ども達の自主性を引き出すお手伝いをします。



浜松製作所では300回以上 6年に渡って活動

2008年2月1日、この環境わごんを浜松市立浅間小学校の3年生134名と先生方が体験。Honda浜松製作所のOBボランティア23名が、運営スタッフとして参加しました。今回のプログラムは、松ぼっくり・どん

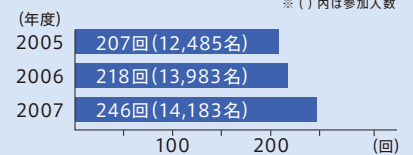


ぐり・間伐材・流木などを使ったネイチャークラフトを通じて、木や森の役割を知り、環境保全の大切さに気付いてもらう「森の夢工房」です。はじめに環境のレクチャーがあり、全部スタッフの手づくりというパネルを使いながら説明していきます。次に安全な道具の使い方が説明され、クラフトが始まります。この時に使う自然素材も、OBボランティアが自ら採ってきたものです。のこぎりやキリなど安全管理が必要な作業については、OBボランティアが手本を見せ



ながらすすめます。しかし、全体を通して、あくまでも子ども達の自主性を尊重し、スタッフはサポート役に徹します。子ども達はそれぞれ、創造性に満ちた作品を仕上げていきました。最後に、この体験の感想とともに、エコバッグの利用や電気の節約など、家でも環境を守るためにできることについても発表してもらいました。今後も、Hondaは全国の事業所の周辺地域で、自然の仕組みや大切さを伝える環境わごんを展開していきます。

●開催実績



●2007年度内訳

事業所	開催回数	参加人数
埼玉	49回	3,767名
鈴鹿	73回	3,310名
浜松	59回	4,333名
熊本	28回	984名
栃木	37回	1,789名
計	246回	14,183名

OBボランティア スタッフの 声

子ども達から受けるパワーが
活動を続けていく原動力に

浜松のOBボランティアスタッフの話では、環境レクチャーで「はじめは本の引用のままに、子どもがまだ習っていない“%”を使った話をしてしまった」など、試行錯誤の連続だったと言います。それでも、「子どもが孫のように相手をしてくれる。パワーをもらえる」「ありがとう、また来てねという子ども達の言葉がうれしい」という思いから活動を続けています。



浜松製作所
OBボランティアスタッフの皆さん

先生の 声

「自然のものに興味津々で、
普段より子ども達がいきいきとしていました」

子ども達を見守りながら、いっしょに環境わごんに参加していただいた浜松市立浅間小学校の先生方。「ぜんぜん子ども達が飽きていない。これをやったら、次はあれとどんどん考えがふくらんでいるみたい」「接着テープも使っていないと言われていたのに、自然のものですつくりたいといけないんだよねって、子どもなりにこの授業の意味を受け止めていました」「木っていいな。でもその木がどんどん少なくなっている。それってなぜ?と考えるきっかけになれば」と普段とは違う子ども達のいきいきとした姿と成長に驚いていました。



浜松市立浅間小学校3学年担当
縣由美子先生
渡邊伸子学年主任
尾上敏子先生
(左から)

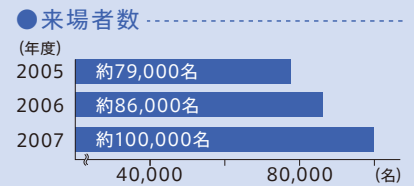
ツインリンクもてぎの学習施設



「気づくチカラ」と「感性」を育てる 里山のフィールド「ハローウッズ」



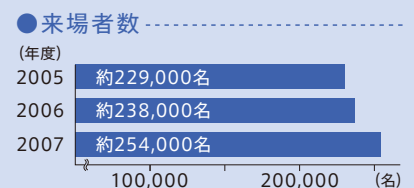
「ハローウッズ」は、栃木県茂木町のツインリンクもてぎの中にある、豊かな里山の自然に囲まれた施設です。人の手入れによって里山を元気にすること、子ども達の「気づくチカラ」や「しなやかな感性」を育むことを目的に、2000年7月にオープンしました。42ヘクタールの森の中には、植物や昆虫などを観察できる自然フィールドをはじめ、クラフトを楽しめる工房や研修室などがあります。ハローウッズのプログラムは、まず子ども達に自然に興味を持ってもらうことからスタート。自然と楽しく関わりあうことが「気づくチカラ」につながり、自然の溢れる生命力を自ら体験することが、新たな「発見」や「感動」のきっかけとなるからです。そしてここでの経験が、一人ひとりが自然や環境のことを自ら考え、行動するための一歩になることを願っています。

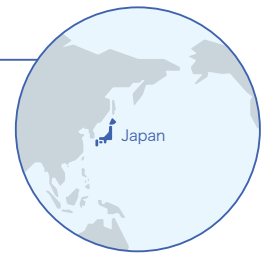


未来の夢を創り体感する 「ファンファンラボ」



モビリティやモノづくりの楽しさを体感してもらい、子ども達の「夢のチカラ」を育む「ファンファンラボ」。Hondaが開発した人間型ロボットASIMOが動く仕組みや開発の歴史を紹介し、ロボットと暮らす未来の夢を描くASIMOゾーン。次世代のクリーンエネルギーやモビリティについて、楽しみながら知識や関心を高めるエコラボ。そしてさまざまな素材を用いて自由な発想で、モノづくりの楽しさを体感できるドリームスタジオなど、館内は多彩なテーマが分かりやすいプログラムで紹介されている5つのゾーンで構成されています。子ども達がいろいろな疑問の答えを、知る、発見する、感じることで、健やかに成長していくために必要な自発性、創造性、社会性を育み、伸ばしていけるプログラム構成になっています。





Honda「発見・体験学習」

体験をもとにして話し合い
本格的にプレゼンテーション



Honda「発見・体験学習」

Honda「発見・体験学習」は、Hondaが企業活動の現場で培ってきた手法や実例をもとに開発した、中高生の「想像力」と「創造力」を養う2泊3日の滞在型探求学習プログラムです。1日目、子ども達はツインリンクもてぎ内の施設でさまざまな体験をします。その後、約10名のチームに分かれ、チームごとに探求テーマを決めます。2日目は、チームごとに各施設を自由に回り、探求テーマに沿った情報を集めます。そして、体験で各々が得た「気づき」「発見」を議論しながら未来創造の提案をまとめ上げます。3日目は、プロジェクターやマイクを使い、作成した資料を全員の前で発表します。3日間という短い期間ですが、この過程を通して、子ども達の中でさらに想像力と創造力が養われていくのです。



子どもの自主性を大切にしながら
LAがさり気なくサポート

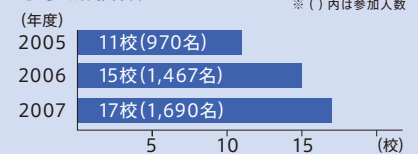
チームの情報収集や、資料作成・編集時に子ども達の議論やコミュニケーションを活発にし、持っている能力を引き出すサポートをするのが、LAと呼ばれるラーニングアドバイザーです。各チームにこのLAが1人ずつ付いて、子ども達をサポートすることが、Honda「発見・体験学習」の大きな特徴です。学校とは違った3日間のプログラムの中で、子ども達が潜在的な創造力や、自分自身の変化などに気付くことができます。



●プログラムの流れ



●参加校数



スタッフの

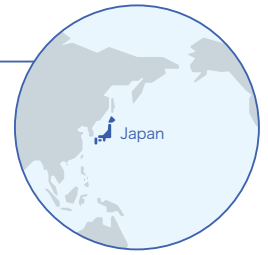
声

「議論の答えを出すのは、
すべて子ども達です」

「私たちラーニングアドバイザーは、子ども達に答えを与えたり、議論を主導したりすることはありません」という中島さん。「発言の少ない子どもには発言しやすい環境をつくらせたり、議論が停滞した時にヒントを投げかけるだけです」「あくまで答えを出すのは子ども達」と自主性に基づいた学習が行われています。



ラーニングアドバイザー
中島千尋さん



子どもアイデアコンテスト



夢、挑戦、創造、そして交流

未来に“あったらいいな”と思うモノのアイデアを、画用紙に描いてもらい、子ども達に夢みる楽しさやつくる喜びを伝える「子どもアイデアコンテスト」。第6回目を迎えた2007年度は、全国の小学生から5,147作品もの応募がありました。その中から一次審査を通過した32組35名の子ども達には、実際の作品づくりに取り組んでもらい、最終審査会で発表してもらいました。試行錯誤を繰り返し完成させた作品を、大勢の人前で一生懸命に発表する子ども達。入賞してもしなくても、彼らは、最後までやり遂げた達成感と貴重な体験を手に入れました。最優秀賞と優秀賞を受賞した子ども達の学校には、特別授業にASIMOが訪問してくれるという嬉しいプレゼントも。また、最終審査会にはタイで開催された「Honda ASIMOスーパーアイデアコンテスト[※]」の入賞者を招き、交流イベントも行いました。文化や習慣は違っても、夢見ることは楽しいと感じる気持ちに変わりはないようです。

※アジアホンダモーターが2005年からタイ国内の小学生を対象に開催しています。



● コンテストの流れ



● 参加実績

(年度)	参加組数	参加人数
2005	4,011組	(4,500名)
2006	3,414組	(3,700名)
2007	5,147組	(5,750名)

※ () 内は参加人数



タイのコンテストの入賞者を招きました

審査員の声

浅井 慎平さん

写真家
第2回大会から
審査員長をつとめる



「入選入賞の皆さん、おめでとうございます。また、残念ながら入賞できなかった子ども達も、最後まで審査に残ったことは大事だと思います。また、自分達の『未来』はどのようになるのか、自分達の力で良い『未来』になるように頑張ってもらいたい。明日に向かって希望を持ち、参加したことについて誇りを持ってもらいたいです。」

「子ども達の発想には驚かされるばかりです。今回で得た達成感や満足感が今後の子ども達の大きな成長に繋がると信じています。」

伊達 公子さん

テニスプレーヤー
第4回大会から
審査員をつとめる



「学校の勉強とは全然違うこと。でもこれも勉強。やってみよう!というあきらめない想いはきっと何かの形になりますよ。」

かおかおパンダさん

アーティスト(壁画など)
第5回大会から
審査員をつとめる



将来の優れた技術者を育てるために

学生フォーミュラ支援

「全日本学生フォーミュラ大会」は、将来の優秀なエンジニアを育成するために、(社)自動車技術会が開催している競技会です。学生達はチームを組み、1年間でフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを設計・製作。性能だけでなく、企画力やコストの考え方、プレゼンテーション能力までをトータルで競い合うものです。Hondaはこの大会に協賛するとともに、HondaのOBボランティア「マイスタークラブ」のメンバーが講師となり、クルマづくりの基礎から溶接や加工などの実技、さらにエンジンや足回りのセッティングなどを教える「学生フォーミュラ チャレンジ講座」を開催し、学生達にモノづくりの厳しさやおもしろさ、喜びを伝えています。



つくる楽しさ、ひろげたい

ドリームハンズ



自分の手でモノをつくり上げる楽しさ・喜びを子ども達に体験してほしい。そんな思いを込めて、事業所のある地域の公民館やイベント会場等で「ドリームハンズ」を展開しています。ドリームハンズは、Hondaオリジナルのダンボールクラフトなどを使い気軽に楽しみながら体験できる、モノづくりの入門プログラム。子ども達をサポートするのは、Hondaの従業員やOBのボランティアスタッフです。このプログラムへの参加をきっかけに、子ども達に「つくる楽しさ」を感じてほしいと願っています。



子ども達から地域社会へ、環境改善の輪を広げる

学校環境奨励賞

アジアホンダモーターカンパニー・リミテッドおよびタイのHondaグループ会社 / Asian Honda Motor Co., Ltd. and the Honda Group Companies in Thailand

1999年、タイのHondaグループは、国王72歳の誕生日を祝い、主要な環境NGOおよび政府機関と協力して、子ども達が環境を損なうことなく持続できる開発についての計画を提案する「学校環境奨励賞」を、タイ全土の全小中学校を対象に開始しました。優秀な提案をした学校は、Hondaから資金援助を受けて計画に取り組み、最も優れた成果を修めた学校に国王賞「キングス・カップ」が授与されます。Hondaグループがこれまでに資金援助した学校は600校を超え、この活動を通して地域社会と自然環境の調和に貢献しています。



排水・ゴミ・エネルギー問題に総合的に取り組み、2007年に第4回のキングス・カップ受賞校となったサ校

自分を見つけ、夢を見つける学校

イーグル・ロック・スクール

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド / American Honda Motor Co., Inc.

アメリカはロッキー山脈のふもと、コロラド国立公園に囲まれた「イーグル・ロック・スクール」。この授業料のかからない全寮制の学校は、既存の高校になじめなかった生徒、人生を変えたいと強く望む生徒達を受入れています。また、このような生徒達をどのようにサポートしたらよいか、その方法を学びたいと望む教育関係者にとっての教育研究施設でもあります。重要なのは、どのように成長したかを生徒自身が記録し、表現し、観察していくこと。授業や共同生活を通じて、生徒達は夢を描き、努力することの大切さを学んでいきます。



まず自分自身を知り、どのような夢を持ち、何を学びたいかに焦点を合わせて授業内容を設計

「第84回東京箱根間往復大学駅伝競走」協賛

開催日:2008年1月2日・3日

若者の育成支援と、学生スポーツの振興に寄与することを目的に2003年度からこの大会に協賛しています。2007年度は、大会本部や運営用に燃料電池車FCXをはじめ、計27台の車両を提供しました。また、グループ会社であるレインボーモータースクールの教習指導員がボランティアで運営管理車のドライバーを務めたほか、メンテナンスチームなど約60名のスタッフが大会運営をサポート。往路ゴール付近ではHondaブースを設け、従業員ボランティアが応援する方々にあたたかい豚汁を配りました。沿道では販売店の協力のもと店舗を開放し、トイレの提供や飲み物のサービスを行うなど、大会の盛り上げに寄与しました。



● 支援実績

年度	提供車両数	スタッフ数
2005	27台	約60名
2006	27台	約60名
2007	27台	約60名

従業員ボランティアの 声

「今回、初めて運営ボランティアに応募・参加しました。皆で、一つの夢、目標に向かって一生懸命に頑張っているランナーを間近で観て、とても感動しました。惜しくもリタイアしてしまった大学、優勝した大学などすべてのチームに、来年も頑張してほしいと思います。来年の駅伝が今から楽しみです。」



安全運転普及本部
高橋 弥生

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2007」特別協賛

<地区大会>開催日:2007年10月7日~11月4日の毎週日曜日 開催場所:全国8ブロックの各会場
<全国大会>開催日:2007年11月25日 開催場所:東京・両国国技館

「全国高等専門学校ロボットコンテスト」は全国62の高等専門学校がアイデアを駆使しながらロボットを製作し、その成果を競います。Hondaは、発想すること、それをカタチにすることの楽しさを実感できるこの大会に2002年度より特別協賛。大会運営の一環として従業員が審査員として参加するほかASIMOを派遣するとともに、特別賞を授与して学生達のモノづくりへの挑戦を応援しています。



従業員 スタッフの 声

「このコンテストは、自分達で考えて設計したロボットを作り上げ、みんなの前で競うもので、学生にとっては、夢や構想を現実化させる良い機会だと思います。また、苦勞して作ったロボットが思い通りに動かない、という厳しさを実感することもあります。Honda(審査員)としては、競技の勝ち負けよりも、他にないアイデアを使ったかどうかを評価してあげたいですね。」



本田技術研究所
主任研究員
飯田 哲生

「第27回大分国際車いすマラソン大会」協賛

開催日:2007年10月28日 開催場所:大分県庁~大分市宮陸上競技場

1981年の国際障がい者年を記念して、世界で初めて“車いすだけのマラソンの国際大会”としてスタートした「大分国際車いすマラソン大会」。以来、毎年開催されるようになり、現在では世界最大級の車いすマラソン大会に成長しています。Hondaは、この大会に1990年より協賛。グループ会社の従業員も選手として参加しています。また、障がいのある人達へのスポーツ支援の一環として、Hondaの従業員やホンダ学園の学生など約50名がボランティアで大会運営に協力しました。



FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP

「DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿2007」特別協賛

開催日:2007年8月3日~5日 開催場所:鈴鹿サーキット

Hondaは、次世代に向けた価値あるモノづくり支援のひとつとして、鈴鹿サーキットを舞台に行われる世界最高峰のソーラーカーレースに、1998年より特別協賛しています。2007年は、海外チームを含む計81チームが出場。優勝チームには、「夢・チャレンジングスピリット」を表現したHondaトロフィーを贈呈しました。大会開催中は、子どもから大人まで幅広い人達に、モノづくりの楽しさを肌で感じてもらおうと、電動小型カート組立て教室やダンボールクラフト教室をはじめ、さまざまなサブイベントを行っています。



「第8回全国中学生創造ものづくり教育フェア」特別協賛

開催日:2008年1月26日・27日 開催場所:つくば国際会議場

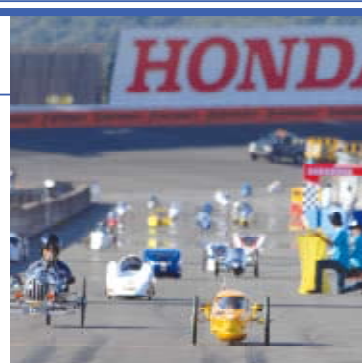
このイベントは、ロボットコンテストや作品展を通じて、全国の中学生に創作の喜びや関心を抱いてもらうために開催されました。Hondaはモノづくりを通じた子ども達の育成支援という観点からこのイベントに特別協賛し、ASIMOのデモンストレーションなどツインリンクもてぎとともに大会運営に協力。Hondaブースでは、クラフトや組立て教室とともにモノづくりの取り組みを紹介するパネル展示なども行いました。



「本田宗一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技全国大会」

開催日:2007年10月6日・7日 開催場所:ツインリンクもてぎ

「1ℓのガソリンでどこまで走れるか」。技術とアイデアを駆使したマシンで燃費の限界に挑戦するこの競技会には、学校や職場の仲間、家族などで構成されたチームが多数参加します。限りある地球資源をいかに活用して走るかという点でも注目を集めています。2007年は、447チーム、約2,300名が参加して、本田技術研究所の有志で構成されたチーム「水曜クラブ」が2,851.501km/ℓを記録し、2年連続で最優秀賞(本田宗一郎杯)を受賞しました。



「2007熱気球ホンダグランプリ」特別協賛

開催日:2007年4月6日~11月25日

「熱気球ホンダグランプリ」は、広く一般に熱気球への理解と関心を深めてもらうために始まった競技会で、飛ぶ人にも見る人にも大きな驚きと感動を与えています。Hondaは熱気球運営機構(AirB)と協力して、子ども達の夢を育むこの大会を支援しています。

